

# 土井ヶ浜整備事業基本構想

2018（平成30）年3月

下関市教育委員会



## はじめに

下関市は美しい自然と、海と山の豊かな資源に恵まれ、人々はこの地で先史時代から生活を営み、悠久の歴史を築いてきました。下関市は旧石器時代から現代に至るまで各時代の遺跡や記念物が残っている、非常に恵まれた地域です。人々の生活の痕跡は各地に遺跡や遺物として残り、現代に引き継がれています。

この地で命を繋（つな）いできた人々の証（あかし）である、多様で豊かな歴史遺産（文化財）を守り、多彩な方法で活用し、工夫を凝らして後世に継承していくことは現代人の果たさなくてはならない責務といえます。

人々の生活の痕跡は、時には古墳など目に見える構造物として、時には私たちの暮らす土地の下に住居跡として残され、人々が生きていくために使用した石器や土器などの道具類は遺物として残り、時としてかれらの姿は骨として残っています。

下関は大陸に近いこともあって、古くから新しい文化が流入してきました。また、響灘・玄界灘を介して九州北部や大陸とは指呼の間にあり、ヒトと文化の交流が盛んな地域でもあります。

響灘に面する土井ヶ浜遺跡は、副葬品を伴って弥生人骨が300体以上も出土した日本屈指の遺跡で、「日本人の起源を探る」というテーマに、はかり知れない貢献を果たすことができる記念碑的遺跡として1962（昭和37）年に国史跡に指定されました。保存良好な弥生人骨が一つの遺跡としてこれだけ出土した遺跡は他にはなく、縄文人の特徴をもたない土井ヶ浜弥生人骨は日本人のルーツと現代人の成り立ちや我が国の弥生文化を理解する基本資料として幅広く利活用されています。この、土井ヶ浜遺跡の本質的価値を確定づけることとなった1953（昭和28）年から1957（昭和32）年までの発掘調査の成果をまとめた発掘調査報告書が2014（平成26）年に刊行されたことで、自然人類学、考古学、民俗学という学際的領域を軸にした土井ヶ浜遺跡の調査研究は、さらに深められる段階へと歩みを進めています。

また、下関市には、農業・漁業などの生業（なりわい）に関する資料、衣食住などの生活用具、人の一生や儀礼にかかわる資料などの民俗資料が豊富に存在し、その使用方法や製作技術を私たちに伝えてくれます。

残された遺構や遺物といった考古資料は私たち日本人がどのようにして現代的な生活を獲得するようになったのかを、民俗資料はどのようにして地域独自の「生きる場」を作り、伝えてきたかを、また、古人骨資料は日本人がどのようにして現代人の姿・かたちを獲得するようになったのかを明らかにし、未来を予測するための貴重な歴史的遺産・資料となるものです。

このように収集された貴重な歴史遺産（文化財）を調査研究し、展示・公開する施設が下関各地に造られ、多様で多彩な下関の歴史文化を守り伝えてきました。しかし、収集された資料を良好な環境のもとで収蔵・保管する施設は非常に限られ、各所の既存の施設も老朽化しています。貴重な歴史遺産（文化財）を守り、継承し、活用していくために、収蔵施設の整備や既存施設のリニューアルは喫緊の課題です。

下関市には先史時代から続く重厚な歴史遺産が数多くあります。下関の歴史遺産（文化財）を守り、活用し、未来に継承していくために、行政と民間諸団体および市民とが協働して、その方策を考え、実践していく必要があります。少子高齢化、人口減少など厳しい状況のなかで、20年後、30年先を展望し、下関市の歴史と文化を守り伝えるという理念のもとに、土井ヶ浜整備事業基本構想を策定しました。

## 目次

第1章 土井ヶ浜整備事業とは	1
(1) 土井ヶ浜整備事業基本構想の目的	2
(2) 土井ヶ浜整備事業の基本理念	3
(3) 土井ヶ浜整備事業の基本方針	3
(4) 資料収蔵についての考え方	5
第2章 共通展示収蔵施設の整備	7
(1) 共通展示収蔵施設の基本的性格	8
(2) 共通展示収蔵施設の機能	8
(3) 共通展示収蔵施設の運営形態	9
第3章 人類学ミュージアムのリニューアル	11
(1) 人類学ミュージアムの基本的性格	12
(2) リニューアル後の人類学ミュージアムの機能	13
(3) リニューアル後の人類学ミュージアムの運営形態	15
第4章 土井ヶ浜整備事業における周辺整備の考え方	17
第5章 基本計画の策定に向けて	21
土井ヶ浜整備事業基本構想検討委員会開催経過	23
土井ヶ浜整備事業基本構想検討委員会委員名簿	23



土井ヶ浜整備事業基本構想

## 第1章 土井ヶ浜整備事業とは

---

- (1) 土井ヶ浜整備事業基本構想の目的
- (2) 土井ヶ浜整備事業の基本理念
- (3) 土井ヶ浜整備事業の基本方針
- (4) 資料収蔵についての考え方

## (1) 土井ヶ浜整備事業基本構想の目的

下関市には、各地域に史跡や記念物、民俗資料が数多く存在しており、博物館や資料館（以下、「博物館施設」という。）はそれらを調査研究するため、その近隣に設置され、今日まで地域の歴史や文化、自然環境を広く発信してきました。今後もこの特色を活かし、各博物館施設の専門性をさらに充実させるとともに、複数の施設が積極的に連携し、これまで蓄積されてきた多彩な文化財・博物館資料（以下、「資料」という。）をいっそう活用しながら、時代や社会環境の変化に伴って多様化する市民ニーズに応え、子どもから高齢者まですべての方が学び、楽しむことができる博物館活動を展開していく必要があります。

このような立地上の特徴から、博物館施設で収集している資料の多くは、市内各所に分散して収蔵され、それらは博物館施設の収蔵能力を超え、収蔵庫に収まりきれず、本来資料の収蔵庫ではないプレハブ施設での保管を余儀なくされるなど、劣悪な環境下で損傷、滅失の危機に直面しています。

そのため、市内の博物館活動の推進には、適切な温湿度管理機能を備えた一定規模の収蔵能力を有する、博物館施設の共通基盤となる収蔵庫の整備が急務となっています。

また、1993（平成5）年に開館した土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム（以下「人類学ミュージアム」という。）は、将来の新たな整備計画に必要と想定される敷地を確保したものの、建設から20年以上の経過による建物・設備の老朽化が進行しており、また展示や収蔵に係る博物館機能が十分ではないことから、展示内容やユニバーサルデザインに関して、来館者のニーズに対応することができていません。

これらの課題を克服し、本市の資料を良好な状態で保全し、未来へ確実に継承することで、多様な地域性を背景とした下関の独自性や個性を明らかにしていきます。

また、土井ヶ浜整備事業は、豊北地域のまちづくりや地域課題の解決にも貢献しつつ、知的探求の連携拠点の役割を果たしていきます。

以上の目的を実現するために、土井ヶ浜整備事業基本構想を策定し、今後の整備に向けての指針とするものです。

## (2) 土井ヶ浜整備事業の基本理念

下関の多様で、多彩な資料を損傷、滅失から守り、次世代に活用可能な資料として継承していくため、また老朽化と市民のニーズに対応するために、共通展示収蔵施設建設と人類学ミュージアムのリニューアルを行います。

## (3) 土井ヶ浜整備事業の基本方針

土井ヶ浜整備事業では、豊北地域の自然豊かな立地環境を活かし、くつろぎと交流が生まれる空間の創出を目指し、整備します。

整備によって、さらに多くの市民や観光客に訪れていただき、土井ヶ浜遺跡や資料がもつ豊かな歴史的、文化的価値を楽しく学びながら、下関の多様な歴史文化を体感し、知的好奇心を育みます。

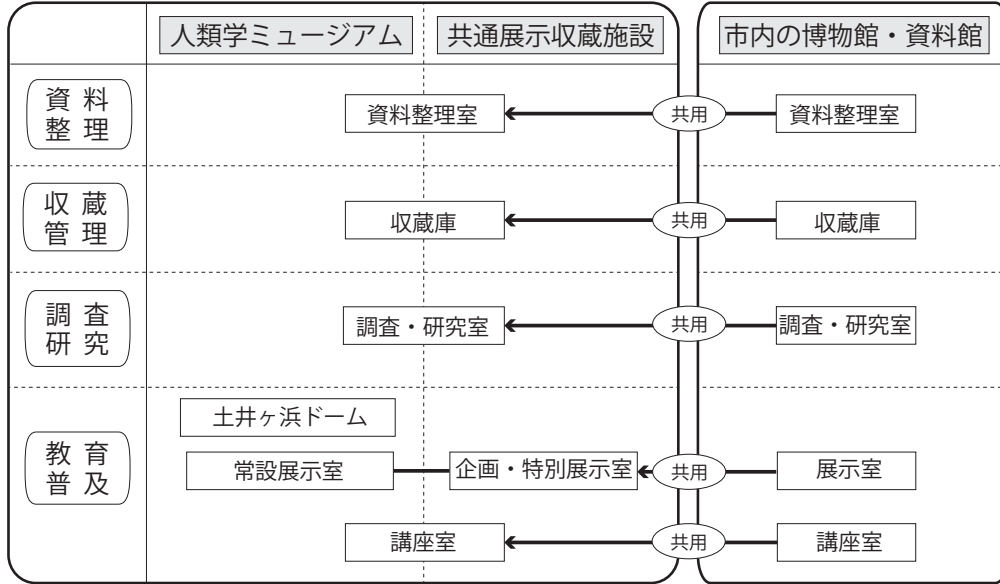
### ① 共通展示収蔵施設の整備

市内の博物館を含む資料収蔵施設において、適切な保存や管理がおこなわれていない環境のもとで分散収蔵されている資料について、適切な収蔵及び活用のあり方を検討し、適切な収蔵環境の下で収蔵し、資料をスムーズに利活用できる展示環境を備えた共通展示収蔵施設を整備して、市内の貴重な資料を次世代に確実に継承するための収蔵拠点とします。

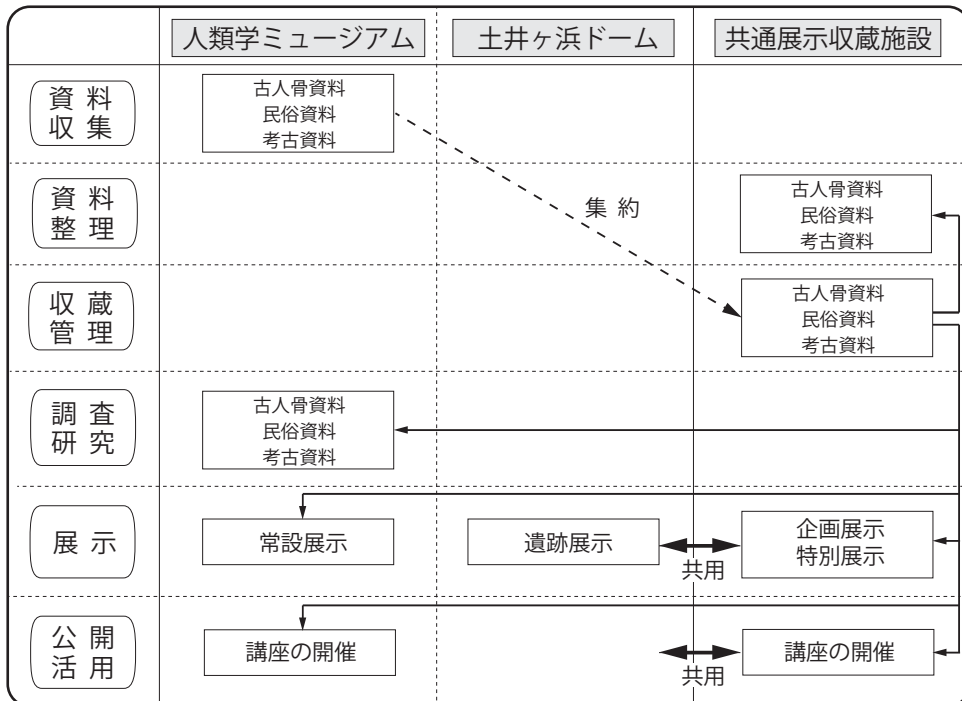
### ② 人類学ミュージアムのリニューアル

土井ヶ浜遺跡や人類学ミュージアムの魅力をいっそう引き出すために、老朽化している建物・設備を更新するとともに、共通展示収蔵施設を共有することにより、不足している博物館機能を補完し、市民や観光客にこれまで以上に楽しんでいただける魅力ある博物館活動を展開します。

〔ハード面での機能分担〕

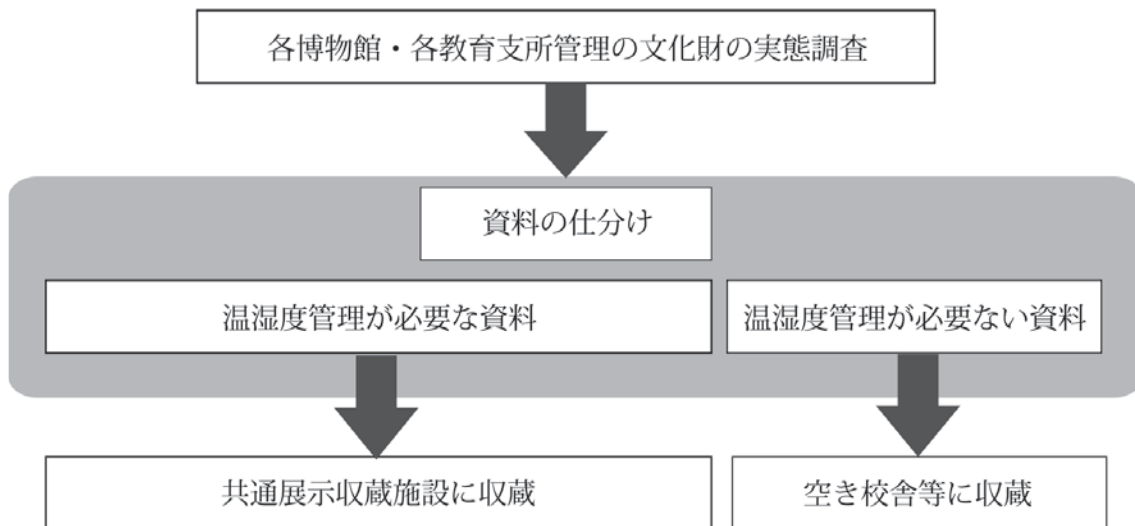


〔ソフト面での機能分担〕



#### (4) 資料収蔵についての考え方

各博物館施設や各教育支所で収蔵・管理されている文化財の資料調査を行い、資料の特性に応じて適切に区分し、収蔵先の施設を選定します。



〔豊北地域に共通展示収蔵施設を整備する理由〕

- ・土井ヶ浜整備事業において、共通展示収蔵施設を建設可能な用地が確保されている。
- ・市内の地域比較において、豊北地区が資料を集約化できる収蔵キャパシティが最も大きい。
- ・温湿度管理が不要な資料は、豊北地域の空き校舎等を有効活用できる。
- ・豊北地域に資料を集約化することで、一元的な効率管理が可能になるとともに、スムーズな効率的利活用も図ることができる。
- ・共通展示収蔵施設が近接することから、当該施設を共有することにより、人類学ミュージアムの博物館機能を補完することができる。
- ・一大観光地となっている角島を訪れた観光客を誘致することにより、博物館施設や資料に興味を持ってもらう契機を提供できる。
- ・市内において、過疎地域となっている豊北地域で、土井ヶ浜整備事業にまちづくり協議会や地域住民が参画することにより、地域振興のツールとして効果的に活用することができる。



土井ヶ浜整備事業基本構想

## 第2章 共通展示収蔵施設の整備

---

- (1) 共通展示収蔵施設の基本的性格
- (2) 共通展示収蔵施設の機能
- (3) 共通展示収蔵施設の運営形態

## (1) 共通展示収蔵施設の基本的性格

### ①資料を「まもる」

市民の共有財産を安全かつ確実に保存する設備とスペースを確保します。

### ②資料を「いかす」

市民の共有財産として、子どもや市民の研究活動の場となるよう資料調査・見学等を通して資料を活用した各種活動の連携の場を提供します。

### ③資料を「つなぐ」

市民の参画を得ながら貴重な資料を次世代へと継承します。

## (2) 共通展示収蔵施設の機能

### ①収蔵機能

- ・ 堅固で十分な広さと、防犯・防災対策を備えた収蔵庫を整備します。また、収蔵庫は温湿度管理に加えて、光や生物被害（カビ・害虫）にも対応できるものとしします。
- ・ 資料の性質や状態に合わせた収蔵環境を整え、資料の収蔵状況を来館者が見学できるような収蔵方法を検討します。
- ・ 資料の収蔵先は土井ヶ浜整備事業予定地を前提としますが、各専門博物館の役割や特色を踏まえて、既設博物館や空き校舎へ選択的に振り分けて収蔵することで、コストを抑えた収蔵方法を検討します。
- ・ 資料の収集は博物館機能の柱の一つであり、将来にわたり収蔵資料の増加は避けられないことから、将来的な収蔵庫の拡充に配慮した計画とします。

## ②展示・公開・活用

- ・資料のデータベース化を進め、資料の閲覧・レファレンス\*機能を充実させ、資料の保護とのバランスを十分に配慮し、市民の誰もが資料に親しめる仕組み作りを進めます。
- ・他の博物館施設と連携し、相互に情報を補完しあうことで市民や観光客に下関市の歴史や文化を深く理解してもらう体制作りを進めます。
- ・他の博物館施設と連携し、共同で展示や講座を積極的に展開し、それらを通じて下関市の歴史や文化を楽しく学べるプログラムの充実を図ります。
- ・重要文化財の展示や巡回型の大型企画展の開催が可能な企画展示室を備え、国や県といった市域外の博物館とも連携できる体制作りを検討し、魅力あふれる多彩な展示活動を展開します。
- ・各種講座やワークショップを開催する講座室を設け、研究成果などを広く紹介・普及していきます。

## ③資料整理・調査研究

共通展示収蔵施設に収蔵される多様な資料の調査研究を行うため、作業室、調査研究室を設けます。

## (3) 共通展示収蔵施設の運営形態

効率的かつ長期的・持続的な活動ができる運営体制を構築するために、共通展示収蔵施設と一体的に整備する人類学ミュージアムが中心的に管理・運営を行うことが最も効果的であると考えられるため、これを可能とする人材と人員を確保していきます。

---

\* (注) レファレンス：情報そのものあるいは資料を検索・提供・回答すること。



土井ヶ浜整備事業基本構想

## 第3章 人類学ミュージアムのリニューアル

---

- (1) 人類学ミュージアムの基本的性格
- (2) リニューアル後の人類学ミュージアムの機能
- (3) リニューアル後の人類学ミュージアムの運営形態

## (1) 人類学ミュージアムの基本的性格

土井ヶ浜遺跡の発掘調査によって出土した弥生人骨と副葬品は、日本人の起源に関する研究や弥生時代の埋葬様式、習俗などの研究に寄与しており、土井ヶ浜遺跡は考古学・人類学の学史的遺産です。今後も土井ヶ浜遺跡の調査研究を行い、貴重な遺跡を保存し、活用していきます。

### ①土井ヶ浜遺跡のエンサイクロペディア\*となる博物館

土井ヶ浜遺跡から出土した遺物や発掘調査に係る資料などを収集・収蔵し、土井ヶ浜遺跡のすべてがわかる日本唯一の博物館にするための活動を行います。

### ②土井ヶ浜遺跡を「まもり」・「いかす」博物館

国史跡である土井ヶ浜遺跡のもつ価値をいっそう引き出し、その魅力と重要性を伝えます。

### ③ヒトと人を学ぶ博物館

生物的側面としての「ヒト」と、文化的側面としての「人」を学べる博物館を目指します。

### ④感じて学ぶ博物館

土井ヶ浜弥生人をはじめとする人々のくらし（自然・歴史・文化）を体験することで、「学ぶ」機会を、学校教育や地域学習活動との連携によって提供していきます。

### ⑤深く究める博物館

各種資料の調査研究を行う専門型博物館として、「専門性」を究め、市内のその他博物館との連携により、人類学・考古学・民俗学などの学際的な総合研究を推進する博物館とします。

---

\*（註）エンサイクロペディア：百科事典。

## ⑥ 広くつながる博物館

人類学・考古学・民俗学の文化財・博物館資料の「知」の集積場所として、市民をはじめ、市内の専門性を有した博物館との連携はもとより、国内外の博物館・研究機関、社会教育施設との連携を強化し、人とモノをつなぐネットワークの要として、多くの人が集まり、「交わり」を作るにぎわい拠点とします。

## (2) リニューアル後の人類学ミュージアムの機能

### ① 資料の収集・収蔵機能

- ・土井ヶ浜遺跡から出土した遺物・人骨および発掘調査に関する資料の収集と保全を行います。
- ・日本でも数少ない自然人類学を中核とした博物館として、古人骨資料を保護するための積極的な役割を果たしていきます。
- ・博物館の理念に則った学術目的の調査によって、考古資料・民俗資料を収集します。
- ・所蔵資料は基本的に共通展示収蔵施設へ収蔵し、人類学ミュージアムの役割や特色を踏まえて、既設博物館や空き校舎へ選択的に振り分けて収蔵することも検討します。
- ・収集した資料の整理は、共通展示収蔵施設内の資料整理室を共有することで補完します。

### ② 調査研究機能

- ・共通展示収蔵施設に収蔵される多様な資料を活かすため、関連分野の他の研究機関や博物館との共同調査・研究ができる専門職員を確保し、調査研究室や設備を備えます。

### ③展示・情報発信機能

- ・現在の固定的な常設展示空間を、調査研究を通じて明らかになる新たな研究成果をスムーズに発信できる可変的な展示空間へと更新します。
- ・資料の整理や調査研究の様子を来館者が見学できるような工夫を検討します。
- ・土井ヶ浜遺跡を復元した土井ヶ浜ドームは、来館者がより遺跡を体感できる展示空間へ更新します。
- ・各種講座の開催は、共通展示収蔵施設の講座室を共有することで補完します。

### ④防災機能

- ・地震や風水害などの自然災害や火災から貴重な文化財を守る機能を備えた施設とします。

### ⑤学習支援機能

- ・市民が主体的に学び、自己実現を果たすことができる生涯学習の場として、誰もが気軽に訪れ、楽しく学ぶことができる多様な学習機会を提供します。
- ・学校教育と連携し、学習過程に対応したプログラムや教材を開発し、学校が活用できる取り組みを促進していきます。
- ・館内にとどまらず出前講座やガイドツアーを実施し、館外活動も積極的に展開します。

### ⑥市民参画機能

- ・展示説明や体験学習の補助など各種活動を支える市民ボランティアの育成に努め、市民とともに親しみやすい活動を展開していきます。

### ⑦来館者へのサービス機能

- ・独自のミュージアムグッズの販売などを行い、来館者の思い出作りのニーズに応えていきます。

### (3) リニューアル後の人類学ミュージアムの運営形態

- ・博物館活動（資料の収集、調査研究、教育普及活動）を効率的かつ長期的・持続的にできる運営体制を構築します。
- ・PPP\*（パブリック・プライベート・パートナーシップ）の導入については、共通展示収蔵施設と同様で、長期的な観点から継続的な運営の確保を前提として、多角的に検討していきます。
- ・博物館あるいは学術研究機関としての法的な位置づけを明確にするため登録博物館とし、重要文化財公開承認施設であると同時に、科学研究費申請機関を目指していきます。

---

\*（註）「PPP」：パブリック・プライベート・パートナーシップ（Public Private Partnership）の略。

官民連携のこと。PPPの手法の代表的なものの一つにPFIがある。公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本や民間のノウハウを利用し、効率化や公共サービスの向上を目指すもの。

「PFI」：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ（Private Finance Initiative）の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することで、効率化やサービス向上を図る公共事業の手法を言う。

（参照：下関市公共施設等総合管理計画）



土井ヶ浜整備事業基本構想

## 第4章 土井ヶ浜整備事業における周辺整備の考え方

---

共通展示収蔵施設の整備および人類学ミュージアムのリニューアルについては、以下の点に留意して進めていきます。

#### ①史跡の保護と自然環境との調和

- ・共通展示収蔵施設の建設および人類学ミュージアムのリニューアルにあたっては、国史跡である土井ヶ浜遺跡の現状の景観と、史跡の保存に影響を及ぼさないよう配慮します。また、遺跡周辺の豊かな自然環境との調和にも配慮します。

#### ②共通展示収蔵施設と人類学ミュージアムの緊密な連携

- ・共通展示収蔵施設および人類学ミュージアムと土井ヶ浜ドームとの間で、人とモノの流れがスムーズになるような施設配置を検討していきます。

#### ③公共施設マネジメントを踏まえた事業計画の策定

- ・共通展示収蔵施設の建設および人類学ミュージアムのリニューアルにあたっては、下関市の公共施設マネジメントの方針との整合性を図ります。

#### ④効率的な進入路の確保

- ・共通展示収蔵施設および人類学ミュージアムへの国道からの進入が容易な導線の確保を検討していきます。

#### ⑤利用者の快適性

- ・来館者が利用しやすく、快適に過ごせるように、バリアフリーの施設環境を整えていきます。
- ・多くの人との交流の場、くつろぎの場を創出していきます。

#### ⑥まちづくりとの連携

- ・土井ヶ浜遺跡と神田岬を取り込んだ土井ヶ浜のまちづくりと連携し、地域の拠点施設としての役割を果たしていきます。

⑦周辺観光施設との連携と観光客の誘致

- ・人類学ミュージアム周辺の観光施設と連携し、観光客を積極的に誘致していきます。



土井ヶ浜整備事業基本構想

## 第5章 基本計画の策定に向けて

---

土井ヶ浜整備の必要性とそのあり方に関する基本的な考え方を取りまとめた今回の「土井ヶ浜整備事業基本構想」を踏まえ、今後は、共通展示収蔵施設と人類学ミュージアムのリニューアルについての具体的な計画となる「(仮称)土井ヶ浜整備事業基本計画」策定に向けて、すみやかに下記の検討を行います。

- ①活動基本方針の検討
- ②事業活動の全体構成
- ③展示計画の検討
- ④施設計画の検討
- ⑤周辺施設の検討
- ⑥資料収集、保存、展示、閲覧・レファレンス、情報発信等の計画
- ⑦管理運営計画の検討

なお、検討にあたっては、市民代表や有識者（学識経験者・博物館関係者）、行政関係者で構成される「(仮称)土井ヶ浜整備事業基本計画検討委員会」（教育委員会附属機関）を設置して、協議を行い、土井ヶ浜整備事業の早期実現を目指します。

---

## 土井ヶ浜整備事業基本構想

2018（平成30）年3月  
編集・発行 下関市教育委員会

---